県政レポート No105

県政に活力！ 諫早に輝きを！

長崎県議会議員
やまぐち　はつみ
山口はつみ

発行責任者：山口　初實　　編集責任者：松永　碩哉
発 行 年 月：令和２年７月

暑中お見舞い申し上げます

コロナ感染が冷めやらぬ中、梅雨に入り線状降水帯の発生により長時間、**九州地方を中心に猛烈な豪雨に見舞われ**、特に熊本県では球磨川の氾濫により人吉市をはじめとする広い地域において水害が頻発し多くの犠牲を強いられており、いまだに復旧の目途が立っていない状況にあります。

このような状況は**『令和２年７月豪雨』**と称することになりましたが、**私たちの長崎県においても多くの被害が発生いたしました。**

7月14日現在、対馬市で1名の方がお亡くなりになり、県内各地においては住家の一部損壊３棟、床上浸水20棟、床下浸水163棟をはじめ河川、道路などの土木施設災害の発生、特に諫早市でも農地農業用施設及び農作物、ハウス等施設にも多くの被害が及んでいます。

被災された皆様には謹んでお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復興復旧をご祈念申し上げます。

一方新型コロナウイルス感染症については緊急事態が解除され、県境を超えて往来ができる状況になり、経済も人の生活もニューノーマルの社会において活力が甦るかに思えました。

しかし東京においては1日当たり過去最高の感染者が発生する状況になり、わが長崎県でもクルーズ船を除き４月17日から感染者ゼロが約３か月程続き、県民の皆様も安堵しておられましたが、長崎市においてクラスターが発生し、**諫早市を含め県内各地域においても新規感染者が多数発生しています。**

感染された方々の早期快復を願うと共に、何としてもこれ以上の感染拡大を防止しなければなりません。

私たちの身近なところまで、新型コロナウイルスは忍び寄っています。**ソーシャルディスタンスを心掛け自分の身は自らしっかり守り、密の状況を避け、マスクと手洗いを励行して、これからの猛暑を元気いっぱい乗り切っていきましょう。**

防災服で現地調査（国道207号改良工事）

豪雨で被災された、エコグリーン（大村市）を現地調査

7月豪雨災害、佐奈河内川・郡川視察

6月定例県議会及び人口減少、雇用対策特別委員会

6月定例県議会は新型コロナウイルス感染防止に向け当初予定を4日間短縮して、6月12日～7月3日までの会期で開催されました。

介護・障害福祉サービス施設などへの新型コロナウイルスの感染拡大防止策の支援に、約36億3700万円の補正予算案が追加上程され、追加分を含めると総額約455億円の一般会計補正予算案など計31議案を可決承認して閉会しました。

本会議では補正予算案などのほか、国に地方財政の充実・強化を求める意見書を可決しました。

知事は新型コロナ軽症者用の宿泊療養施設は6月15日までに長崎、佐世保両市内の2ホテルで計157床を確保し、PCRなどの検査は1日当たりの可能件数を2040件まで拡大したいと述べました。

私は委員長を務めている、人口減少・雇用対策特別委員会を会期中の7月2日に開催し、6月開催の社会減対策に引き続き人材確保対策について討議を行いました。

人口減少・雇用対策特別委員会

県議会のテレビ広報番組「県議会リポート」に出演し、
下記のように特別委員長としてインタビューに応えています。：7月25日(土)15:55～NCC放映

長崎県の人口は、近年、毎年1万人程度のペースで減少を続け、全国水準を大きく上回っている状況にあり、『人口減少対策』は本県の最重要課題として位置づけられています。

本県では、さまざまな対策を講じてきており、移住の促進や企業誘致による雇用創出など、一定の成果が得られた分野がある一方、大学新卒者の県内就職率が伸び悩むなど、十分な成果を得られていない分野もあります。

本委員会では、『社会減対策』『人材確保対策』『若者・女性対策』の3つのテーマについて、議論を行っております。

委員会においては、既存の施策の充実はもちろんのこと、新型コロナ後のニューノーマル(新常態)を見据えた施策などについても議論し、本県の人口減少に歯止めがかけられるよう、しっかり取り組んでまいりますので、県民皆様のご指導をよろしくお願いいたします。

第1回人口減少・雇用対策特別委員会（R2.5.1開催）

運営方針(付議事件別審査内容)については第１回特別委員会で下記のように確認、決定いたしました。

《付議事件》	《審査内容》
★社会減対策	・移住促進に関すること
	・集落維持・活性化対策に関すること
★人材確保対策	・産業人材の確保対策に関すること
	・外国人材の活用に関すること
	・雇用の確保対策に関すること
★若者・女性対策	・雇用の場の確保と若者の県内定着促進に関すること
	・女性の県内定着促進に関すること

コロナの関係もあり、年６回の開催予定となりました。成果がでるようにしっかり議論を進めてまいります。

第2回人口減少・雇用対策特別委員会（R2.6.4開催）

《社会減対策について》

主な質疑について報告します。

■Uターン希望者の就職支援について

【質問】新型コロナウイルス感染拡大を背景に、Uターン希望者の増加が期待されるが、今現在就活している学生を含めて就職が非常に難しいような状況でどのように取り組みを考えているのか。

【地域づくり推進課長】移住の施策を推進するにあたり、移住される方の一番の希望は仕事という事でここに力を入れています。

移住サポートセンターを運営しているが、ここの求人情報では、不足するということで、県内の支援関係機関とも連携を強化している。

その一つとして、国の関係機関である産業雇用安定センター（離職者の転職支援）と常日頃連携し情報交換を行っている。

■長崎市の人口減少対策について

【質問】人口減少は長崎にとって大変な課題である。特に長崎市が県内の人口の4割を占めているということで、何が要因なのかという捉え方、そしてそれをどうやって行くのか、雇用の関係を含めて現状認識は。

【政策企画課長】転出超過の多くが若者という形になっている。18歳、22歳、高校卒業時に進学で出て行く。大学卒業時に就職で出て行く。そこが８割を占めている。いったん出て行くとなかなか戻ってこないというところが一つの課題だと思っている。３月に策定したまち、ひと、しごと創生総合戦略の中でもUターン政策に力を入れていく。長崎市とも同じ認識のもと施策をすすめていきたい。

■移住支援事業について

【質問】東京から、都心から、長崎へ入って創業すると補助金が出るが、活用状況は。

【地域づくり推進課長】移住支援事業で、東京から本県に移住してきた方に１世帯100万円、単身の場合は60万円支援することを昨年から行っている。昨年は本県で５件の活用となっている。令和２年度は63件の予算枠をとっています。情報発信して移住につなげていきたい。

第3回人口減少・雇用対策特別委員会（R2.7.2開催）

《人材確保対策》

主要な説明及び議論について報告します。

■介護職員の労働環境や処遇改善で人材確保！

【質問】介護分野における人材確保対策について課題と対策は。

【長寿社会課長】長崎県労働局がまとめた介護サービス関係の有効求人倍率は、平成29年度に２倍を初めて上回り、直近の令和元年度では2.3倍まで上昇しており、人材不足の状況が続いています。

また、平成29年度に推計した介護職員の需給ギャップでは、令和７年度において約3300名の不足を見込んでおり、さらなる人材確保が必要な状況となっています。

こうした状況を踏まえ、介護分野の人材確保対策については、まずは、介護分野への参入を促し、参入した職員の労働環境や処遇を改善することにより定着を図り、定着した職員の資質向上を図ることにより、より良いサービスの提供が出来るよう、人材確保に向けた好循環を確立する総合的な対策を講じているところです。

■新規就農者の確保を目指す

【質問】農業の担い手対策についての現状と課題は。

【農業経営課長】基幹的農業従事者の３割を75歳以上が占めており、今後、就業人口や農家数の減少が予想される中、本県の次世代の農業を支える新規就農者の安定的な確保に向け、**「新ながさき農林業・農山村活性化計画」**において、新規自営就農者250名、新規雇用就業者250名、合計500名の確保を目標に取り組みを進め、令和元年度においては、目標には少し及びませんでしたが、合計492名を確保したところです。

しかし、新規就農者は一定確保できている状況であるが、本県の農業の中心的役割を担う認定農業者については、平成27年から30年までに259経営体が減少していることから、さらに新規就農者を確保し、認定農業者に育成・支援していく必要があります。

令和２年度からは、就農希望者を本県に呼び込み、呼び戻す取り組みを強化し、さらなる新規就農者の確保を目指します。

■増加傾向にある外国人労働者

【質問】長崎県における外国人労働者の現状は。

【雇用労働政策課長】県内の外国人労働者の総数は5977人で多い順に、技能実習が2648人の44％、資格外活動が1363人の23％、専門的・技術的分野が997人の17％となっている。平成27年に比較し総数で1767人、率にして40％の増加となっている。

活動スナップ

〈災害危険個所調査〉
県央振興局管内の災害危険個所について
現地調査

〈知事要望〉
新型コロナウイルス対策について
連合長崎と共同要望を行う

〈改革21控室〉
控室でもマスク着用で感染防止を図る

〈人口減少・雇用対策特別委員会〉
人口減少対策は本県最大の課題

〈国道207号〉 佐瀬地区改良促進中

主要地方道、一般県道の改良工事(以前からの要望あり)が行われます。

路　線　名	工事内容	区間	施工距離
諫早飯盛線	歩道整備・道路拡幅	土師野尾～飯盛	2.4km
有喜本諫早停車場線	歩道整備・道路拡幅	松里町	1.0km
田結久山線	歩道整備・道路拡幅	飯森町里～古場	2.0km

コラム

『新型コロナと東京五輪、パラリンピック開催の可能性』の演題でN新聞の政経懇話会に出席しました。

新型ウイルス感染拡大で2020東京大会が1年延期されましたが、大会開催をどう思いますか？

1、コロナ対策を尽くして開催してもらいたい。
2、開催してほしいが、ワクチンができることが条件だ
3、世界中の感染が沈静化しない限り、開催すべきではない
4、もう1年、2022年に延期したほうがいい
5、パリ開催予定の2024年に延期し、次々、繰り下げて開催すればいい
6、今年10月まで様子をみて決めればいい
7、すぐに中止を決めるべきだ
8、わからない

との問いに会場では3番が多数でした。皆さんは如何お考えでしょうか？

何れにしても新型コロナが、世界で終息することが極めて重要です。

連絡先

山口はつみ事務所

〒859-0402 諫早市多良見町囲452-3
TEL･FAX
0957-43-2800
メールアドレス
hatumi@mrh.biglobe.ne.jp
ホームページ
http://yamaguchi-hatumi.com
ホームページ
https://www.facebook.com/hatsuml.yamaguchl
facebook